

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第24週の発生動向

全数報告の感染症 (24週までに新たに届出のあったもの)

1類感染症：報告なし。2類感染症：結核 4例。3類感染症：報告なし。
4類感染症：日本紅斑熱 1例。5類感染症：後天性免疫不全症候群 1例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・病名	症状等
2類	結核	宮崎市	60歳代	男	肺結核	症状なし
			70歳代	女	肺結核	咳、痰
		延岡	70歳代	男	肺結核	症状なし
		日向	80歳代	女	無症状病原体保有者	—
4類	日本紅斑熱	日南	60歳代	女	—	発熱、頭痛、刺し口、発疹、DIC
5類	後天性免疫不全症候群	都城	30歳代	男	無症候性キャリア	—

定点把握の対象となる5類感染症

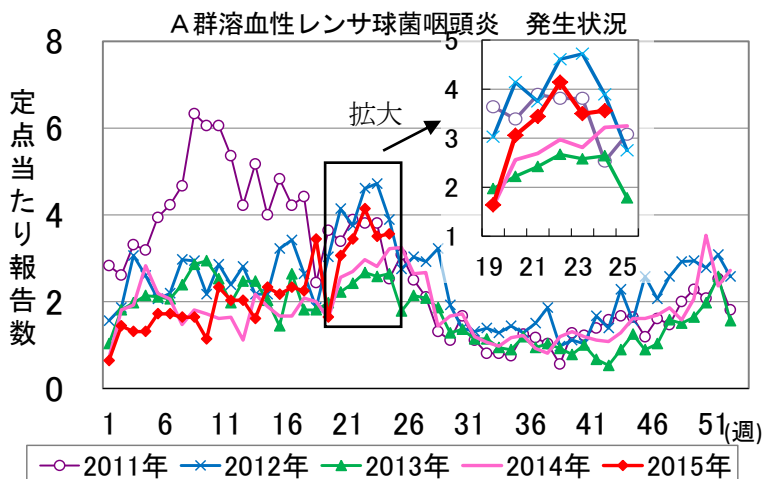
・定点医療機関からの報告総数は 880 人 (定点当たり 26.3) で、前週比 104%とほぼ横ばいであった。前週に比べ増加した主な疾患は感染性胃腸炎と手足口病で、減少した主な疾患はインフルエンザと咽頭結膜熱であった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

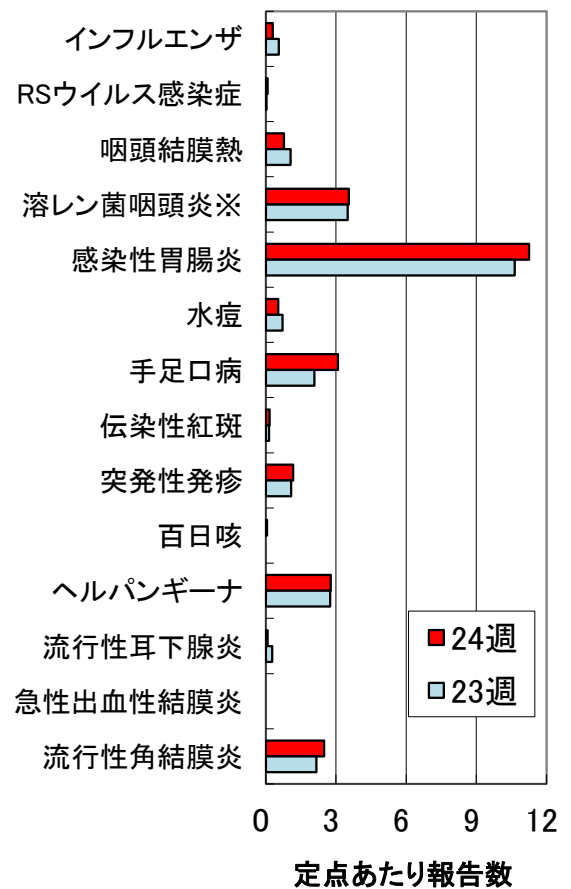
【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

・報告数は 128 人 (3.6) で、前週比 102%とほぼ横ばいであった。例年同時期の定点当たり平均値* (2.8) の約 1.3 倍と多い。日南(9.3)、中央(9.0)保健所からの報告が多く、年齢別では3~5歳が全体の約半数を占めた。

* 過去5年間の当該週、前週、後週 (計15週) の平均値

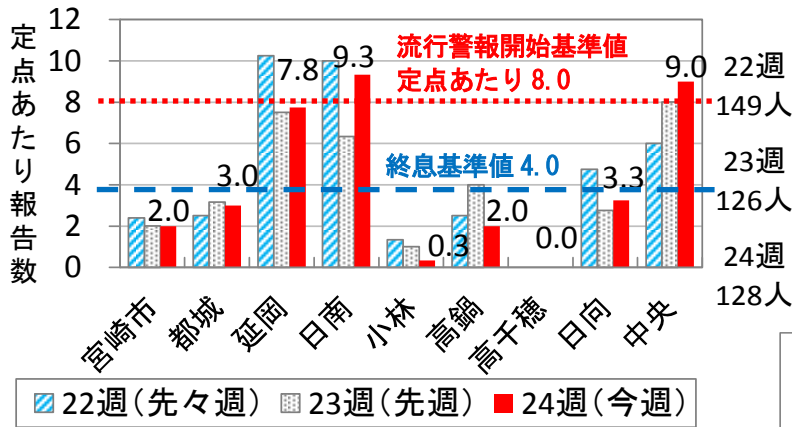


《前週との比較》



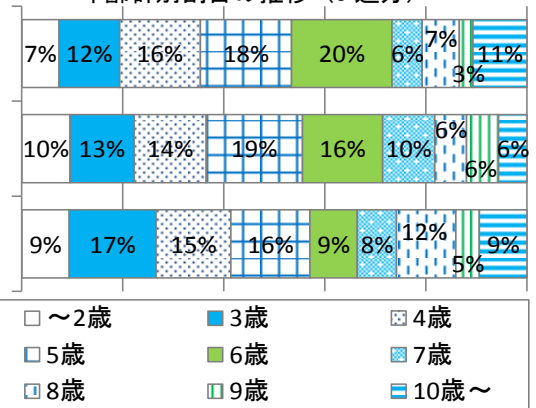
※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 保健所別推移（3週分）



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

年齢群別割合の推移（3週分）



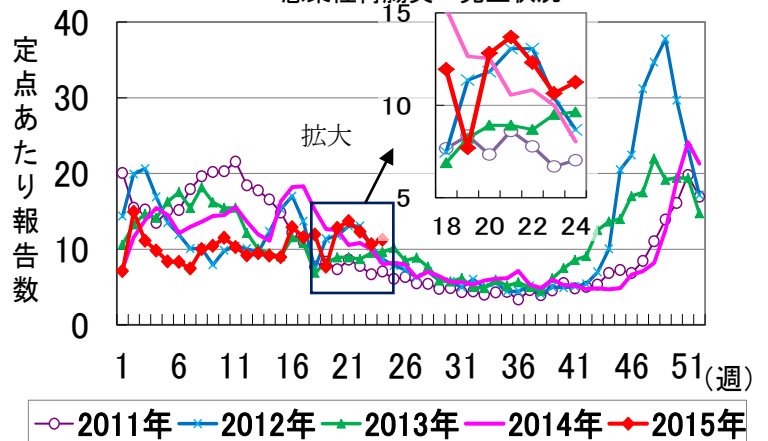
【感染性胃腸炎】

・報告数は405人(11.3)で、前週比106%とやや増加した。例年同時期の定点あたり平均値*(8.6)の約1.3倍と多い。日南(24.7)保健所からの報告が多く、年齢別では1～5歳が全体の約半数を占めた。

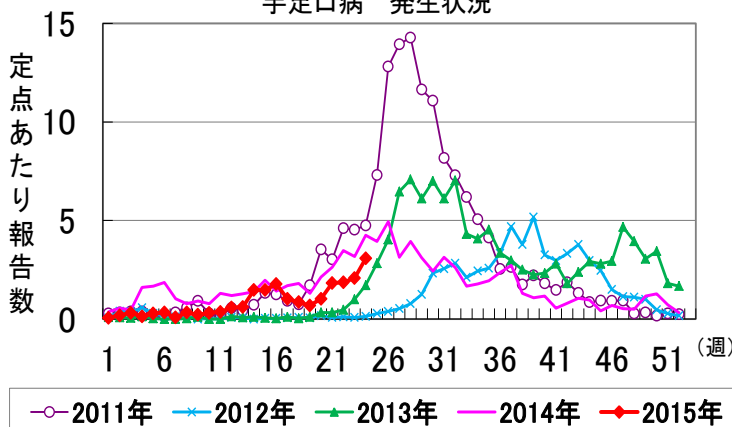
【手足口病】

・報告数は111人(3.1)で、前週比148%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値*(3.4)の約0.9倍と少ない。中央(8.0)保健所からの報告が多く、年齢別では1～2歳が全体の約6割を占めた。

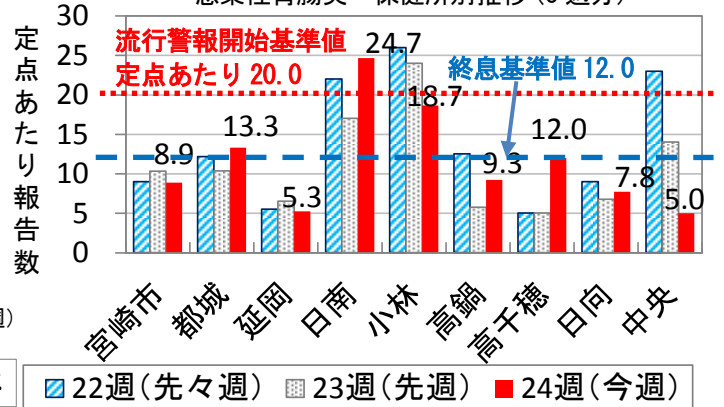
感染性胃腸炎 発生状況



手足口病 発生状況



感染性胃腸炎 保健所別推移（3週分）



★流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市、都城、延岡、小林、高鍋、高千穂、日向	なし
日南	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(9.3)、 感染性胃腸炎(24.7)、 ヘルパンギーナ(15.7)
中央	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(9.0)、 手足口病(8.0)

* 流行警報レベル開始基準値 *

- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(8.0)
- ・感染性胃腸炎(20.0)
- ・手足口病(5.0)
- ・ヘルパンギーナ(6.0)

□ 病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 平成 27 年 6 月 15 日までに検出）

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同日
<i>Salmonella</i> Manhattan(O8(O6):d:1,5)	0～4歳	男	2015.5.27	—	便	2015.6.3
EPEC(OU:H7)	10歳代	女	2015.6.3	EPEC疑	便	2015.6.15

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状等	検出材料	検出日
単純ヘルペスウイルス1型	0～4歳	男	2015.05.07	ヘルペス口内炎、発熱	咽頭ぬぐい液	2015.06.03
ライノウイルス	0～4歳	女	2015.06.02	新生児早期発熱、呼吸器感染疑い 38.4℃、上気道炎	鼻汁	2015.06.04
エコーウイルス3型	0～4歳	女	2015.05.18	ウイルス感染症の疑い、38.4℃	便	2015.06.15

○ヘルペス口内炎と診断された乳児から単純ヘルペスウイルス 1 型が分離された。単純ヘルペスウイルスは接触や飛沫により感染する。初感染は、母親からの移行抗体がなくなる生後 6 か月から 3 歳までの乳幼児にみられる。

○呼吸器症状を伴う新生児からライノウイルスが検出された。5 月には検出されなかったが、4 月に 8 件検出しており、うち 6 件は 1 歳未満である。ライノウイルスはとくに春、秋にみられる呼吸器感染症の原因ウイルスで、全国的に検出数は減少傾向にあるが、6 月に検出されていることから、今後の発生動向を注視していく必要がある。

○ウイルス感染症疑いの新生児からエコーウイルス 3 型が分離された。エコーウイルス 3 型は 6 月に 2 件（本症例を含む）、5 月に 2 件分離されている。いずれも 1 歳以下の新生児～乳幼児であり、発熱、発疹等を認めている。

🇯🇵 全国第 23 週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第 23 週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	408 例				
3類感染症	細菌性赤痢	6 例	腸管出血性大腸菌感染症	57 例	パラチフス	2 例
4類感染症	E 型肝炎	1 例	A 型肝炎	5 例	オウム病	1 例
	重症熱性血小板減少症候群	6 例	チクングニア熱	1 例	つつが虫病	5 例
	デング熱	6 例	日本紅斑熱	8 例	マラリア	1 例
	野兔病	1 例	レジオネラ症	20 例		
5類感染症	アメーバ赤痢	17 例	ウイルス性肝炎	7 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	18 例
	急性脳炎	3 例	クリプトスポリジウム症	1 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	2 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4 例	後天性免疫不全症候群	18 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3 例
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1 例	侵襲性肺炎球菌感染症	22 例	水痘（入院例）	7 例
	梅毒	26 例	破傷風	5 例	風しん	6 例
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1 例				

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 93%とやや減少した。前週と比較して増加した主な疾患はヘルパンギーナで、減少した主な疾患は感染性胃腸炎と手足口病であった。

手足口病の報告数は 5,910 人(1.9)で前週比 93%と減少し、例年同時期の定点当たり平均値*(1.0)の約 1.8 倍と多い。徳島県(10.5)、香川県(5.5)からの報告が多く、年齢別では 1～2 歳が全体の約半数を占めた。

ヘルパンギーナの報告数は 1,456 人(0.46)で前週比 124%と増加し、例年同時期の定点当たり平均値*(0.66)の約 0.7 倍と少ない。宮崎県(2.8)、三重県(1.9)、福岡県(1.7)からの報告が多く、年齢別では 1～3 歳が全体の約 7 割を占めた。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2015年 第24週(6月8日～6月14日)

疾病名		第23週	第24週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	33	18	1	7		2	7		1		
	定点あたり	0.56	0.31	0.06	0.70	0.00	0.40	1.40	0.00	0.50	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	1	3					1			2	
	定点あたり	0.03	0.08	0.00	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.50	0.00
咽頭結膜熱	報告数	38	28	2	10	1	6		1		8	
	定点あたり	1.06	0.78	0.20	1.67	0.25	2.00	0.00	0.25	0.00	2.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	126	128	20	18	31	28	1	8		13	9
	定点あたり	3.50	3.56	2.00	3.00	7.75	9.33	0.33	2.00	0.00	3.25	9.00
感染性胃腸炎	報告数	383	405	89	80	21	74	56	37	12	31	5
	定点あたり	10.64	11.25	8.90	13.33	5.25	24.67	18.67	9.25	12.00	7.75	5.00
水痘	報告数	26	19	9	1	3	1		2		2	1
	定点あたり	0.72	0.53	0.90	0.17	0.75	0.33	0.00	0.50	0.00	0.50	1.00
手足口病	報告数	75	111	46	11	4	7	9	10	3	13	8
	定点あたり	2.08	3.08	4.60	1.83	1.00	2.33	3.00	2.50	3.00	3.25	8.00
伝染性紅斑	報告数	5	6	1	1	1	1				2	
	定点あたり	0.14	0.17	0.10	0.17	0.25	0.33	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00
突発性発しん	報告数	39	42	10	5	9	4	5	5	1	3	
	定点あたり	1.08	1.17	1.00	0.83	2.25	1.33	1.67	1.25	1.00	0.75	0.00
百日咳	報告数		2		1		1					
	定点あたり	0.00	0.06	0.00	0.17	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	99	100	11	4	22	47	1	3		12	
	定点あたり	2.75	2.78	1.10	0.67	5.50	15.67	0.33	0.75	0.00	3.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	10	3	1	1						1	
	定点あたり	0.28	0.08	0.10	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	13	15	13	2							
	定点あたり	2.17	2.50	4.33	1.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数	3										
	定点あたり	0.43	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2015年第1週～24週)

2類感染症	結核	98例(4)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	7例				
4類感染症	A型肝炎	2例	重症熱性血小板減少症候群	4例	つつが虫病	3例
	日本紅斑熱	5例(1)	マラリア	1例	レジオネラ症	1例
5類感染症	アメーバ赤痢	1例	ウイルス性肝炎	3例	急性脳炎	2例
	クローンフェルト・ヤコブ病	2例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3例	後天性免疫不全症候群	8例(1)
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1例	侵襲性肺炎球菌感染症	2例	水痘(入院例)	1例
	梅毒	3例	播種性クリプトコックス症	2例	破傷風	5例

()内は今週届出分、再掲

月報告対象疾患の発生動向 <2015年5月>

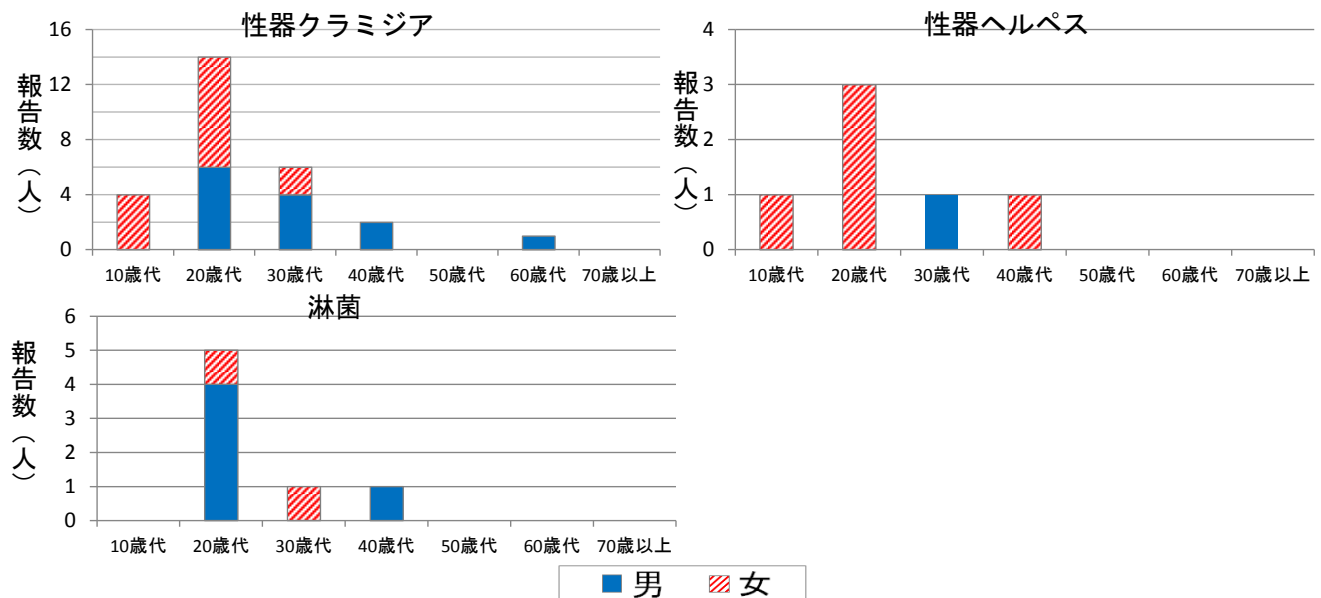
□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は40人(3.1)で、前月114%と増加した。また、昨年5月(3.1)と同じであった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数27人(2.1)で、前月の約1.1倍、昨年5月と同程度であった。年齢別では20歳代が全体の約半数を占めた。
(男性13人・女性14人)
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数6人(0.46)で、前月の約1.2倍、昨年5月の2.0倍であった。年齢別では20歳代が全体の約半数を占めた。(男性1人・女性5人)
- 尖圭コンジローマ：報告はなかった。
- 淋菌感染症：報告数7人(0.54)で、前月の1.4倍、昨年5月の約0.9倍であった。年齢別では20歳代が全体の約7割を占めた。(男性5人・女性2人)



【全国】 定点医療機関総数：981

定点医療機関からの報告総数は3,916人(4.0)で、前月比106%とやや増加した。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症1,973人(2.0)で前月比104%、性器ヘルペスウイルス感染症792人(0.81)で前月比110%、尖圭コンジローマ488人(0.50)で前月比106%、淋菌感染症663人(0.68)で前月比108%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は15人(2.1)で前月比88%と減少した。また昨年5月(3.9)の約0.6倍であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数15人(2.1)で、前月の約0.9倍、昨年5月の0.6倍であった。70歳以上が全体の約6割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告はなかった。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告はなかった。

【全国】 定点医療機関総数：473

定点医療機関からの報告総数は1,487人(3.1)で、前月比99%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,284人(2.7)で前月比98%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症183人(0.39)で前月比108%、薬剤耐性緑膿菌感染症20人(0.04)で前月比100%であった。